

第 18 回 総会記念講演

アホウドリ：1,000 つがい、5,000 羽回復への道

長谷川 博



総会記念講演
講演者：長谷川 博先生



伊豆諸島 鳥島

現在、地球上でも日本列島でも、地方でも、多くの生物種が絶滅の危機に瀕している。それらの種を再生へと導き、生物多様性を保全することは、われわれにとって重要な課題の一つである。ぼくは 42 年間、絶滅が危惧されていた大型の海鳥アホウドリ（オキノタユウ）の保全研究・活動を続け、ついにこの種の再生を確信できるようになった。

この海鳥は、かつて羽毛目当ての激しい乱獲に遭い、急速に個体数が減り、1949 年には絶滅が宣言された。しかし 1951 年に、伊豆諸島鳥島で 10 羽ほどの生存が再発見され、その後、鳥島気象観測所の人々によって保護された。しかし、1965 年に観測所が閉鎖され、保護活動は途絶えた。それから 11 年後の 1976 年に、ぼくが保護研究を再開した時、繁殖つがい数は 40 組余りで、その繁殖期の巣立ちひな数はわずか 15 羽、総個体数はおよそ 150～200 羽と推測された。

最初の保護の取り組みは、急傾斜の斜面で営巣している鳥たちの繁殖成功率を引き上げ、巣立つひなの数を増やすことだった。1981 年と 82 年に、地面がむき出しになっていた営巣地に植物を移植し、好適な営巣地を造成した。その結果、1985 年には 51 羽のひ



成鳥の離陸



アホウドリ成鳥の飛翔



従来の営巣地

なが巣立ち、繁殖成功率は約 67% に上昇した。しかし 1987 年に急斜面で大規模な地滑りが起こり、その後、営巣地に泥流が侵入して繁殖成功率が再び低下した。これに対処するため、1993 年から大規模な砂防・植栽工事が実施され、4 年後に繁殖成功率は元の水準の 67% に戻り、巣立ちひな数は 100 羽を超えた。その後も従来営巣地の保管理工事が続けられ、繁殖成功率は約 67% に維持され、2018 年には 390 羽のひなが巣立った。

第二の保護課題は、地滑りや泥流のおそれのない安全な斜面に新しい営巣地を形成することだった。1992 年から島の北西側にあるなだらかで広い斜面に、多数のデコイを並べ音声装置を設置して、従来営巣地で生まれた若鳥を誘引した。開始から 12 年後の 2004 年に 4 組のつがいが生卵して、新営巣地が確立した。その後、若い個体が従来営巣地からつぎつぎに移入して、新営巣地のつがい数は急増し、2018 年には 389 組になった。

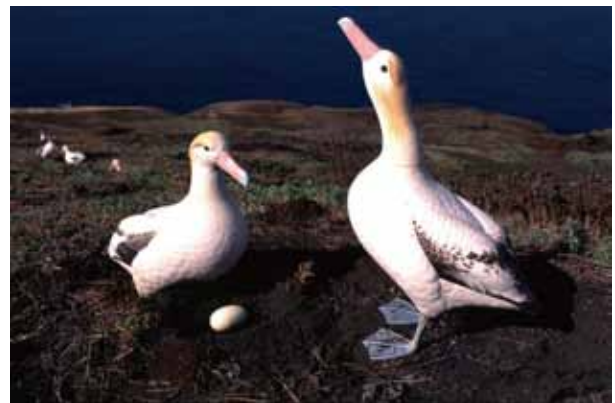
鳥島全体では、2018 年 5 月に 688 羽のひなが巣立ち、総個体数は推定で 5,165 羽になった。また、2018 年 11 月には繁殖つがい数が 1,011 組になった。近年、鳥島集団は年率約 9% で成長してきた。これは 8 年間で個体数が 2 倍になることを示し、2026 年には約 10,000 羽に、2030 年代半ばには約 20,000 羽になると予想される。この鳥の再生は確実に変わった。



求愛ダンス



ヒナへの給餌



アホウドリのデコイ



新しい営巣地